

特色ある区づくり事業「じゅんさい池みらいプロジェクト」

第1回 じゅんさい池みらい会議 会議概要

開催日時	令和2年7月29日（水）午後2時～3時30分
会場	東区役所1階 会議室A
出席委員	五十嵐委員、佐藤委員、長谷川委員、服部委員、山中委員、渡邊委員
事務局	地域課長ほか同課より3名、区民生活課長補佐ほか同課より1名、建設課長ほか同課より1名
概要	<p>【議事】</p> <p>(1) じゅんさい池みらいプロジェクト概要について</p> <p>○事務局より【資料2】を用いて説明を行いました。</p> <p>○委員からは、主に次の意見・質問がありました。</p> <ul style="list-style-type: none">・本会議と里潟研究ネットワーク会議のじゅんさい池調査グループとの情報共有や連携はどのように行うのか。 <p>→（事務局）基本的には、事務局同士（市環境政策課⇔東区役所関係課）がやりとりし、両会議へ伝達していく形を想定している。ただし、五十嵐委員、佐藤委員は双方に所属しているので、必要に応じてお二人から報告や補足説明などをお願いしたい。</p> <p>(2) 方向性の検討の進め方について</p> <p>(3) 今年度の取り組みについて</p> <p>○事務局より【資料3】を用いて説明を行いました。</p> <p>○委員からは、主に次の意見・質問がありました。</p> <ul style="list-style-type: none">・「調査」は里潟研究ネットワーク会議が実施するイメージか。 <p>→（事務局）「地域が主役里潟保全事業」では「調査・研究」が事業の趣旨にもなっており、今年度はじゅんさい池を取り上げたガイドブック作成に取り組んでいく予定。調査の規模や方法も様々あると思うが、本プロジェクトとしても必要な調査だと思われるものであれば協力する。同じような調査を双方で行うようなことになると非効率なので、しっかり連携したい。・学校や児童について、本プロジェクトに対してどのような役割を期待しているか。学校の環境学習での取り組みに対し（例えば、じゅんさい池公園のベンチを製作するなどの取り組みを実施した場合）予算措置等は可能なのか。<p>→（事務局）昨年度のワークショップでのまとめは「東区の宝のひとつであるじゅんさい池を未来の子どもたちへつないでいくべき」というものであり、本プロジェクトの趣旨は、そのために活用方法等の方向性を考えていくというもの。学校での環境教育の取り組みを踏まえ、子どもたちの考え方や視点を会議へ伝えていただきたい。</p></p>

<p>概 要</p>	<p>子どもたちのアイデアや学校での取り組みについても、現段階で予算措置を約束するものではないが、本プロジェクトにおいて必要と判断すれば、協力可能と思われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の取り組みとして、ワークショップやセミナーはどのように予定しているのか。 <p>→（事務局）コロナウイルスの影響も考慮し、現在は未定。昨年度は方向等何もない中でフラットな状態での意見を求めるワークショップだったが、今後は、本プロジェクトの動きに合わせ情報を提供し、この会議での意見や方向性に関する情報がある程度蓄積されたところで、広く区民の方に意見をお聞きする場としてワークショップ等を実施できたらと考えている。</p> <p>【意見交換】</p> <p><PR 冊子の活用について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイドブックは小学生向けがあるとよい。昨年度、里潟研究ネットワーク会議で作成した「十二潟ガイドブック」は、小学生には少し難しい内容や記載があると思う。 ・小学生向けの正しい情報のガイドブックがあると大変よい。学校の図書室に置ければ、直接環境学習の授業がない学年も手にする機会ができる。また、漫画での説明だと親しみが増すと思う。記事や絵などを子どもに入稿させたり、映像の広報などが予定されるのであれば、出演するなど、直接の関わりもできるかもしれない。 ・里潟研究ネットワーク会議のガイドブック作成のスケジュールと本プロジェクトとの連携やすり合わせをしっかりと行ってほしい。 <p><その他の広報について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの作成も予定されているが、本プロジェクトだけでなく里潟研究ネットワーク会議など必要な情報にリンクするようになるとうよい。ただし、情報の出典・根拠・正確性には十分注意すべき。 ・ホームページ上に「意見箱」のような、誰でも意見を送信できるようなしくみができればよい。 ・多くの人に興味を持ってもらうために、「動く市政教室」のメニューに入れるなどの取り組みはどうか。 <p><じゅんさい池公園の環境について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・園内は看板が少なく、慣れていないと迷ってしまう。多くの人に訪れてもらうためにも分かりやすい案内看板が必要。 ・今の時期は草も多く繁茂し、水も黒くて蚊も多い。園内を散策するにはちょっと環境が良くないと感じる。駐車場や座れる場所の整備も必要ではないかと思う。
------------	---

概 要

＜取り組みや議論の進め方について＞

- ・ 会議体としても、1つの方向に絞っていくのは実態として難しいのだと感じているが、様々な意見の中で、どういう合意点をつくるかという話になっていくと思う。園内の環境整備等についても、意見だけを出して、あとはすべて行政や業者に任せるとするのはまちづくりではない。
- ・ 持続可能な形を目指すのであれば、「主役は地域の人、中でもコアは子ども、行政や来訪者は応援する立場」、「地域に住んでいる人が自慢できる・誇りに思う環境づくり」という考え方を根幹にすべきだと思うが、潟や地域によって事情は様々なので、それぞれに合った形を見つけるべき。
- ・ ここまで話に出てきた小学生と大人以外にも、中・高・大学生など、多世代かつ隣接した世代が繋がるとよい。
- ・ 例えば葦刈りについても、その作業の意義（意味）やビフォーアフターなどをしっかり押さえておくべき。子どもに伝わらないものは大人にも伝わらないので、分かりやすく発信することが大切。
- ・ 最近、新聞等で「ジュンサイの採取」や「いもり池での環境保全の取り組み」などが取り上げられているが、じゅんさい池でも、何を魅力として打ち出すか検討していくべきではないか。
- ・ 「じゅんさい池の価値は何か」という視点での検討が必要。希少な地形や、住宅街の中にあり人の暮らしとの関わりが濃厚であるという点では、他の潟と大きく違う。課題と合わせ、価値や魅力についてもリストアップし、議論の材料にできるとよいのではないか。

＜次回の会議に向けて＞

- ・ 次回は10～11月に予定とのことだが、この会議で現地を歩き、その後意見交換というような形で開催できないか。それまでに事務局では、現地歩きにあたって必要な知識や情報などをアドバイザーから聴取しておいてほしい。
- ・ 次回の会議までの間に、委員は各々の組織からの意見等の吸い上げや集約などをしてはどうか。次回はそのような意見等の共有や協議ができるとよい。